

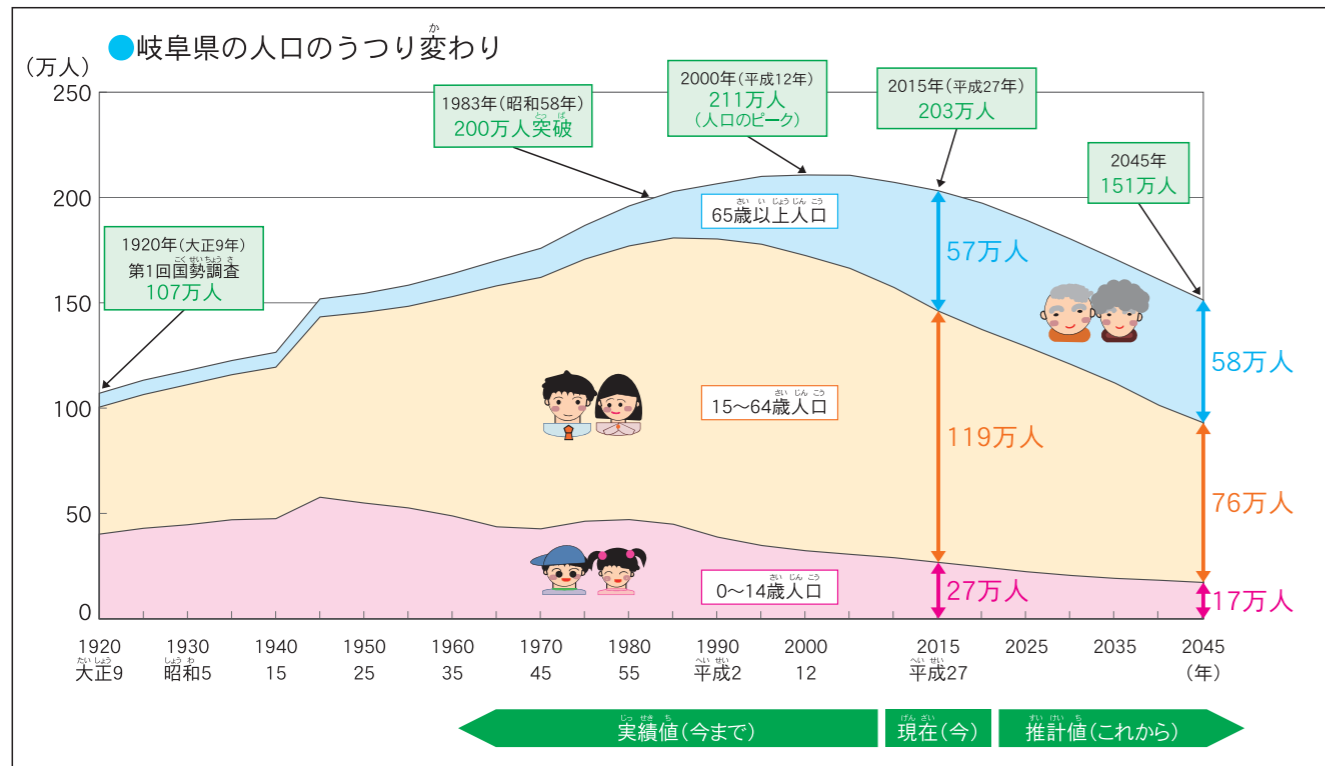
岐阜県の30年後の人口は？ ～人口減少社会への挑戦



30年後の自分の姿を想像してみたことがありますか。

30年後というと、ちょうどみなさんが40歳くらいになるころでしょうか。

下のグラフは、1920年（大正9年）の「第1回国勢調査」から現在までの人口のうつり変わりと、これから30年後（2045年）までに岐阜県の人口がどのように変わっていくかをグラフに表わしたものです。人口のうつり変わりで、今までとこれからでは、どんなことが違っているのでしょうか。



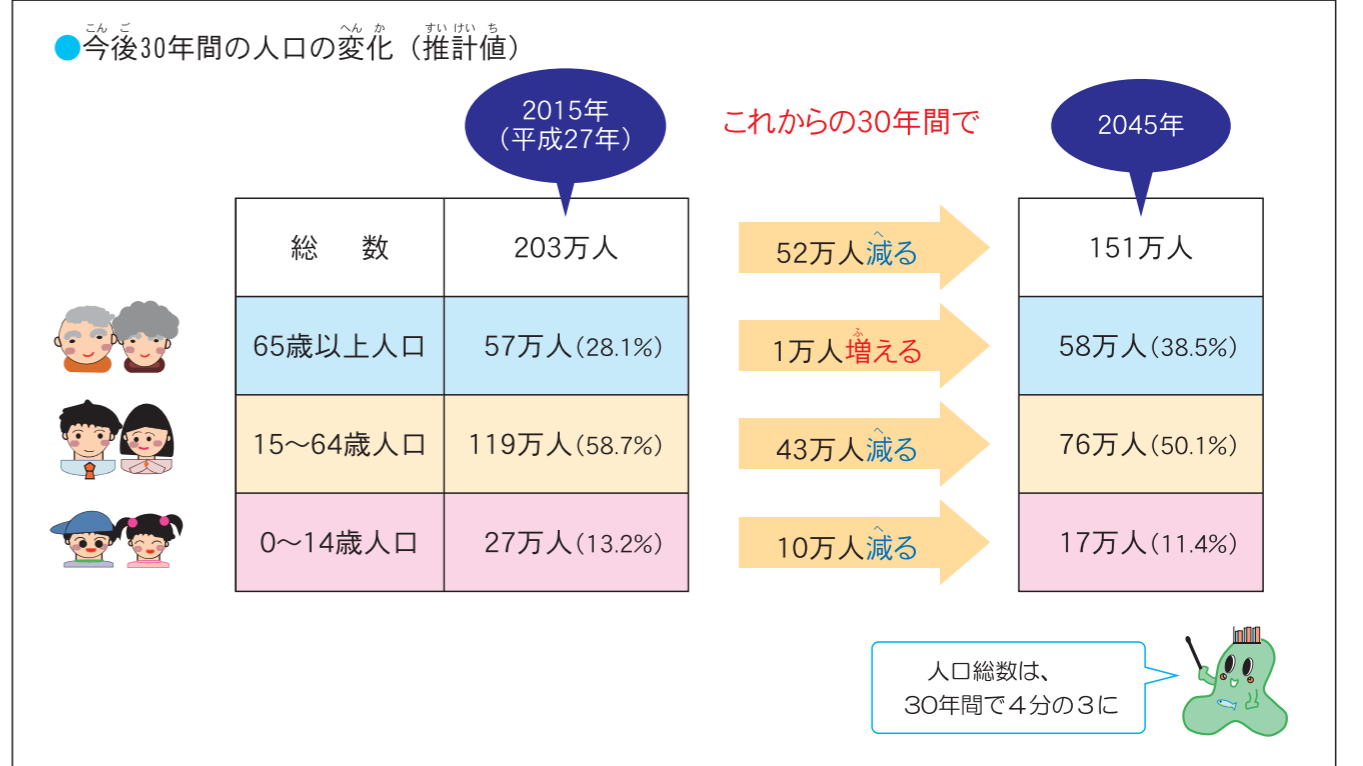
岐阜県の人口は、ベビーブームなどに後押しされながら長い間増え続け、1983年（昭和58年）には200万人を突破、さらに、2000年（平成12年）ごろには、211万人という人口のピークを迎えました。

しかし、1980年代から子どもの数が減り始めたことで、2005年（平成17年）ごろからは、人口が減り始めました。2010年から2015年までの5年間には、人口が約5万人減少しましたが、現在の恵那市の人口が約5万人であることを考えると、その人口減少の大きさが感じられます。

この人口の減少は、これからも続いて、30年後の2045年には、今よりも人口が52万人も少ない151万人になると予測されています。

30年間で人口が203万人から151万人へ、つまり、4分の3に減るということを学級の中のことに例えて考えてみましょう。28人の学級は21人に、4人ずつのグループは3人ずつに人数が減るといことです。すると、日直や給食当番、係活動がちょっと大変になる気がしませんか。すぐに順番が回ってきたり、1人2役になることもあるかもしれません。また、大人数でチームを作るスポーツなどができなくなってしまうかもしれません。

社会全体で人口が減ることも同じように考えることができます。人口が減ると働く人の数が少なくなります。すると、ひとりひとりの働く量が増えて大変になります。また、やりたいことができなくなつて地域社会に元気がなくなってしまうことも考えられます。



このように、人口が減少していく社会は、「人口減少社会」と言われています。

上の図からもわかるように、減る人口が働く世代に集中していることから、「人口減少社会」は、今とても大きな問題とされているのです。

みなさんは、人口が減っても地域が元気であるためには、どんなことが大切だと思いますか。「人口減少社会への挑戦」の第1歩として、先生やおうちの人と一緒に考えてみましょう。

(出典)実績値(1920～2015年):総務省「国勢調査」(2015年は、年齢不詳をあん分した人口(参考表)を使用) 推計値(2016～2045年)は、「岐阜県の将来人口推計結果」